

国語科・第3学年

1 教科のねらい

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のように育成することを目指す。

- (1) 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

2 学習の仕方

(1) 授業では

- ① 休み時間のうちに、授業の準備をして、チャイム着席を守る。
- ② 授業中は注意深く指示を聞き、他の生徒と協力して学習課題に積極的に取り組む。
- ③ 他の人の意見をよく聞き、自分でも考えて意見を積極的に発表する。
- ④ 板書を分かりやすくワークシート等に写し、自分の考えも書き入れるなど工夫する。

(2) 家庭などでは

- ① 予習として教科書を音読し、読めなかった漢字の読み方を調べておく。
- ② 新出漢字を練習したり、授業で触れた言葉の意味を確認したりしておく。
- ③ 単元終了時にワークやテストプリントに取り組み、学習した内容の定着を図る。

(3) 定期テスト前には

- ① 教科書を繰り返し音読する。
- ② 授業ノート、プリント、ワークを見直して、学習したことを復習する。
- ③ 新出漢字が正確に書けるようにしておく。

3 教科の学習内容

時期	単元名・教材名	学習のねらい	主な学習内容
一 学 期	自己紹介文を書こう～オリエンテーション～	理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。 多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫することができる。	第3学年国語学習の目標、学習の進め方 ・自己紹介文を書き、読み合う。
	お気に入りの詩集を作ろう～表現の仕方について評価する～ 「春に」「初恋」「やわらかな想い」	文章の構成や論理の展開、表現の仕方について評価することができる。	・語句の選択や配列、書き手が行う表現上の工夫 ・表現についての評価の仕方
	「立ってくる春」随筆の言葉から季節の掲示物を作ろう ～効果的に文字を書く～毛筆～	身の回りの多様な表現を通して文字文化の豊かさに触れ、効果的に文字を書くことができる。 文章の構成や論理の展開、表現の仕方について評価することができる。	・「随筆」という文章の特徴について理解する。 ・効果的な文字の書き方
	自身の経験から話し合おう ～文章の表現の仕方について評価する～ 「なぜ物語が必要なのか」「漢字の広場1 異音・漢音・唐音」	文章の種類とその特徴について理解を深めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】C(1)の文章の構成や論理の展開、表現の仕方について評価することができる。	・物語の構成、展開 ・内容の説明 ・文章の種類と特徴 ・文章の表現に対する評価の仕方
	「一言でまとめ一言から広げる」最近のできごとを伝えよう ～伝え合う内容を検討する～	目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、多様な考えを想定しながら材料を整理し、伝え合う内容を検討することができる。	・3～4人のグループを作り、一人が最近のできごとや体験を話す。 ・伝え合う内容の検討 ・言葉の意味を把握し、具体的なできごとを考えること ・和語、漢語、外来語について理解し、効果的に使い分けること
	座談会をしよう ～文章を読んで考えを広げたり深めたりする～「私」	自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。 文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。	・「私」の心情の変化を表にまとめ、それぞれの登場人物の設定の仕方について自分の考えをもつ。 ・考えの広がりや深まり ・読書の意義
	硬筆展に向けて練習しよう ～硬筆～「行書と仮名を調和させて書こう」	身の回りの多様な表現を通して文字文化の豊かさに触れ、効果的に文字を書くことができる。	・文字の字形を整えること ・文字の伝達性や表現性など表現効果
	ビプリオバトルをしよう ～読書の意義と効用について理解する～ 「薔薇のボタン」	文章を読んで考えを広げたり深めたりして人間、社会、自然などについて自分の意見をもつことができる。	・今までに読んで印象的だった本について、ビプリオバトルを行う。 ・読書の意義と効用の理解
	スピーチをしよう ～話の構成を工夫する～ 「構成を考えて主張をまとめる漢字の広場1 異音・漢音・唐音」	情報の信頼性の確かめ方を理解し使うことができる。 自分の立場や考えを明確にし、相手を説得できるように論理の展開などを考えて、話の構成を工夫することができる。	・論理の展開や話の構成の工夫 ・漢字の音の理解
	情報について考えよう～文章の構成について評価する～ 「メディア・リテラシーはなぜ必要か？新聞が伝える情報を考える」「漢字の広場2 熟字訓」	情報の信頼性の確かめ方を理解し使うことができる。 文章の構成や論理の展開、表現の仕方について評価することができる。	・文章の構成の評価 ・熟字訓の理解
	自分の考えを文章にまとめよう ～文章を批判的に読み筆者の主張に迫る～ 「AIは哲学できるか」	具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。 文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。	・筆者の考え方に対する自分の考えの形成 ・文末表現に注意しながら、筆者がこれからの人工知能と哲学の関係をどのように捉えているか考える。また、筆者が「そういうことは当分起きないと予想する。」と述べている理由について考える。 ・「AIは哲学できるか」という題名をつけた筆者の意図について考えたことを文章にまとめる。
	説明文を書こう ～論理の展開を考えて文章の構成を工夫する～ 具体例を基に説明文を書く文法の小窓1 助詞のはたらき 助動詞のはたらき	情報の信頼性の確かめ方を理解し使うことができる。 文章の種類を選択し多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて文章の構成を工夫することができる。	・助詞や助動詞の種類とはたらきを捉えて文章の中での活用の仕方を考える。 ・読み手を説得するための構成の工夫 ・書いた文章を読み合い、適切に一般化して説明できたかアドバイスし合う。
	校内の標識を書こう ～効果的に文字を書く～ ～毛筆、硬筆～ 「身のまわりの多様な表現をおして文字文化の豊かさにつれ、効果的に文字を書く」	身の回りの多様な表現を通して文字文化の豊かさに触れ、効果的に文字を書くことができる。 目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にすることができる。	・効果的な文字の書き方
「1学期の国語学習を振り返ろう」	文章の種類を選択し多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて文章の構成を工夫することができる。 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。	・初めに自分の意見を述べ、それを裏付ける事実を示し、自分の意見の正当性、妥当性を示す書き方を基本として、論理の展開を工夫して書くこと ・学年別漢字配当表に示されている漢字について文や文章の中で使い慣れ、適切に使用すること	

二 学 期	説明的な文章を読み比べよう ～文章の論理の展開について評価する～ async同期しないこと 問いかける言葉	文章の構成や論理の展開、表現の仕方について評価することができる。	・「学びナビ」を読み、『async』と『問いかける言葉』について筆者の主張とその根拠(主張のよりどころ)に着目しながら読む。 ・『async』、『問いかける言葉』の文章の構成や展開、表現の仕方について図式化しながら整理する。
	古典の一節を紹介しよう ～文章に表れているものの方や考え方を捉える～ 旅への思い —芭蕉と『おくのほそ道』—	長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うことができる。 文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの方や考え方について考えることができる。	・『旅への思い』を通読し、『おくのほそ道』や芭蕉について理解する。 ・歴史的仮名遣いに注意して『おくのほそ道』の文章をノートに書き写し、音読する。 ・「旅立ち」「平泉」「立石寺」のそれぞれに描かれた情景と芭蕉の心情について話し合う。
	ニュースの台本を作ろう ～文章の構成について評価する～「ニュースで情報を編集する 言葉の小窓2 相手に対する配慮と表現」	情報の信頼性の確かめ方を理解し使うことができる。 文章の構成や論理の展開、表現の仕方について評価することができる。	・敬語の適切な使用 ・ナレーションに応じた画像を選択し、ニュース台本を完成させ、画像にそってナレーションを読み、効果的なニュースになっているかどうかを話し合う。 ・文章の構成についての評価
	実用文を読もう ～文章の種類と特徴について理解する～実用文を読む 漢字の広場3「異字同訓」	文章の種類とその特徴について理解を深めることができる。	・異字同訓の理解
	批評文を書く～自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫する～「説得力のある批評文を書く」文法の小窓1 助詞のはたらき 文法の小窓2 助動詞のはたらき	言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。	・比較や関係付けを生かした批評文の書き方について理解する。 ・判断や評価を伝えやすい構成を考える。 ・文章の表現の工夫
	鑑賞文を紹介しよう ～古典を読むことを通じてその世界に親しむ～「和歌の調べ —万葉集・古今和歌集・新古今和歌集—」	歴史的背景などに注意して古典を読むことを通じてその世界に親しむことができる。 文章を読んで考えを広げたり深めたりして人間、社会、自然などについて自分の意見をもつことができる。	・万葉集・古今和歌集・新古今和歌集について、特徴や文学的価値について知るとともに、声に出して和歌を読んで、表現の特徴や言葉のリズムを味わう。 ・歴史的背景 ・和歌の情景や心情、背景や作者などについてお気に入りの曲の歌詞と比べながら鑑賞文を書き、紹介し合う。
	漢詩を朗読しよう ～古典を読むことを通じてその世界に親しむ～ 「風景と心情—漢詩を味わう—」	歴史的背景などに注意して古典を読むことを通じてその世界に親しむことができる。 文章の構成や論理の展開、表現の仕方について評価することができる。	・漢詩の形式を知り、二つの漢詩を読む学習の課題をもつ。 ・漢詩の形式・歴史的背景 ・書き下しや訓読のきまり、対句や韻を理解して二つの漢詩の内容や作者の思いを読み取る。
	未来の「希望」を伝え合おう ～小説を通して人間や社会について考える～「故郷」	理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うことを通じて、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 文章の種類を踏まえて、論理や物語の展開の仕方などを捉えることができる。	『故郷』を読み、話の展開や内容の大体をつかみ、初発の感想をグループで共有する。 ・過去と現在における「私」と「関土」の思いを考える。 ・「私」が抱えている故郷の社会的な課題、「私」の「希望」を捉える。
	書きぞめ展に向けて練習しよう ～毛筆～「書き初めを書く」	身の回りの多様な表現を通して文字文化の豊かさに触れ、効果的に文字を書くことができる。	・お手本に忠実に視写する。 ・行書の特徴を理解し、字形を整え、文字の大きさ、配列、配置を意識して書く。
	自己PR文を書こう ～自分の文章のよい点や改善点を見いだす～「自己PR文を書く 言葉の小窓3 慣用句・ことわざ」	慣用句などについて理解を深め、話や文章の中で使い、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて理解することができる。	・構成や表現の仕方に注意して、自己PR文を書く。 ・ことわざ、慣用句の活用
スピーチしよう ～自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫する～「表現の工夫を評価してスピーチをする 言葉と社会1 コミュニケーションの場を考える—場に応じた表現や話題— 漢字の広場4 四字熟語」	理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、話の中で使うことを通じて、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 場の状況に応じて言葉を選ぶなど、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができる。	・場に応じた表現や話題 ・自分の考えを「誰に対して」「どのような場所で」「どのような言葉で」「どのように」伝えるかなどを想定して、スピーチ原稿を作成する。 ・場面を想定した上でスピーチをする。	
「2学期の国語学習を振り返ろう」	文章の種類を選択し多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて文章の構成を工夫することができる。	・2学期の各単元を振り返り、自己評価をしたことを基に、文章にする。	
三 学 期	わたしたちに行えることを考えよう ～自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫する～「持続可能な未来を創るために —人間の生命・存在を考える 生命とは何か 地球は死にかかっている 水の星」	具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。 「書くこと」において表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫することができる。	・「生命」の定義を考える。 ・「さまざまな技術は進歩しているのに、解決しない問題が多いのはなぜか」について話し合う。
	討論しよう ～合意形成に向けて考えを広げたり深めたりする～「対話力」とは何か 意見を共有しながら話し合う 言葉と社会2 自分の意見を述べるとき —言葉の力と裁判—	敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使うことができる。 進行の仕方を工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりすることができる。	・環境問題や資源の有限性について、自分が興味・関心をもっていることを具体的に挙げる。 ・『「対話力」とは何か』を参考にし、グループでお互いの意見を出し合い、共通点や相違点を整理し、グループで意見をまとめる。
	自分の読書生活を振り返ろう ～読書の意義と効用について理解する～「バースデイ・ガール」	理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、四字熟語についての理解を深め、話や文章の中で使うとともに、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。	・『バースデイ・ガール』、『青春の歌』を読んで、互いの感想を交流する。 ・「読書記録」などで、今までの読書を振り返る。 ・読書の意義と効用についての理解
	「3学期の国語学習を振り返ろう」	文章の種類を選択し多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて文章の構成を工夫することができる。	・初めに自分の意見を述べ、それを裏付ける事実を示し、自分の意見の正当性、妥当性を示す書き方などを基本として、論理の展開を工夫して書くこと ・学年別漢字配当表に示されている漢字について文や文章の中で使い慣れ、適切に使用すること

4 評価について

(1) 知識・技能

社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりしている。

- ①漢字を正しく読んだり書いたりすることができるか。
- ②語句や言葉のきまりを正しく理解しているか。
- ③字形を整えて効果的に書くことができるか。

(2) 思考・判断・表現

「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や共感したり想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。

- ①相手の話を注意深く聞き、内容を理解することができるか。
- ②広く話題を求め、速度や声の大きさに注意して効果的に伝えることができるか。
- ③目的に応じ、条件を守って適切な文章を書くことができるか。
- ④自分の考えや意見を、根拠を明確にして適切に書くことができるか。
- ⑤文章の内容を正しくとらえ、主題を考えたり要旨をとらえたりすることができるか。
- ⑥語句の意味を正確にとらえ、論理の展開を正確につかむことができるか。

(3) 主体的に学習に取り組む態度

言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値を認識しようとしているとともに、読書を生活に役立て、言葉を適切に使おうとしている。

- ①学習の見通しをもって、自ら課題に積極的に、粘り強く取り組んでいるか。
- ②読書を生活に役立て、言葉を適切に使おうとしているか。
- ③ノートやプリントなど学習の記録が整理されているか。